

大会宣言(案)

私たち JR 東日本輸送サービス労働組合水戸地方本部は、ひたちなか市商工会議所において「第2回定期大会」を開催し、「いのち」と「健康」を最大の価値基軸とし、「エッセンシャルワーカー」としてふさわしい、職場づくりと労働条件の向上を目指し向こう1年の運動方針を満場一致で確認した。

新型コロナウイルス感染症は、7月に入り首都圏を中心に感染者数が増加し、東京では連日1000人を優に越える3桁の感染者の発生により、第2波を思わせるような様相となっている。私たちは、新型コロナウイルス感染症にいつ感染するか分からない「不安」と「リスク」と隣り合わせのなかで日々業務に従事している。また「2020年3月ダイヤ改正」では、富岡～浪江間が運転再開となり、常磐線は全線運転再開となった。しかし、福島第一原子力発電所事故による放射能の不安と健康被害への不安は現在ですら払拭できていない。私たち鉄道従事者は、人間が社会生活を維持する上で不可欠な仕事として「エッセンシャルワーカー」と認知され、なおかつ専門性・特殊性を有することから簡単に置き換えることが出来ない。

しかし会社は、ジョブローテーションの推進、感染症拡大防止を名目とした職場における休養室のシーツ交換や社員による営業列車の除菌作業などが、社員の自主性や社員の発意という名の下で進められてきている。このような社員の自主性や社員の発意といった「自主的強制」、さらには国土交通省で定められている「アルコール検知器の酒気帯びの確認の変更」を理由とした労働時間の曖昧化と賃金未払いが狙われてきている。「コロナだから」「10年後のことを今やらなければならない」と施策推進の正当性を訴えてはいるが、一方で進める施策のリスクや対策を現場社員にマイプロや委員会活動で対策・対応させる姿勢は会社の企画能力低下を明らかにするだけであり、さらにはインドにおける高速鉄道の失敗を隠し、経営責任も取らずにそのツケを私たちに押し付けることは本末転倒である。

さらに職場では、安全が軽視され考えられないような事象やミスが多発してきていることに危機感を持たなければならない。しかし会社は、発生する事象を他職場にオープンにすることなく、「基本動作」と言う一方で「今までの概念に囚われない」「作業のやり易さ」「システムへの変更」といった「変革」の下で変化させることへの歩みを止めることなく、施策の速度を加速してきている。私たちは安全第一で現場第一主義に基づいた職場からの検証運動とチェック機能を強化し、安全再確立に向けた取り組みを強化していかなくてはならない。

「働き方改革」とコロナ禍における「新たな生活様式」の提唱で、社会は大きく変わろうとしている。経団連が発表した「経営労働政策特別委員会」では、テレワークや副業の推進が議論されており、JR他社でも「一時帰休」が行われ、JR東日本もその問題意識から「休業指示における就業規則の一部改正」を提案したが、昨年「私の提言」で「副業・兼業の解禁と個人スコアリングの提案」が最優秀に選ばれていることから、単なる偶然とは言い難く「コロナに乗じた」施策推進であることは明らかである。

結成大会以降、水戸地本の申し入れにおける団体交渉で、会社は「出勤時間までに出勤するのが労働者の義務」「主張は受け止めるがやるかやらないかを決めるのは会社」「通常線区であり測定しない」「折り返しにゆとりという考えはない」と人間労働を否定する回答や労使間の合意形成の否定を繰り返し、明らかな団体交渉の形骸化が狙われており、その根底にはJR東海・葛西の著書「未完の国鉄改革」があることを抑えておかなければならない。

「労働協約」が、5月15日に申し入れから3ヶ月という期間を要して締結に至った。その過程では対立を繰り返したが、コロナ禍という状況下での「いのち」と「健康」を優先し早期締結を判断した。以降、「労使間に関わる協約」に基づき、組合掲示板設置を求め議論を進めてきているが、一部職場においては未だに組合掲示板設置に至っていない。現場長は人目につかない箇所を敢えて指定してきている。さらには申請した箇所ではなぜダメなのかという根拠すら一切述べることなく、「現場長の判断」と言い放った。これでは労働協約は締結しても活動は制限する、憲法・法律で保障された労働組合への「支配・介入」と言わざるを得ない。私たちは、このような会社姿勢に対しては毅然と対応していくことを明らかにしておく。

18春闘でのJR東日本会社とグループ会社による不当労働行為の目的は「施策推進」「労働法に守られない労働者づくり」である。また会社からの不当労働行為に対して、勝田運輸区で「この問題を曖昧にすることは出来ない」と起ち上がった仲間、救済申立てを行った「JT S U - B 棚倉分会」や「脱退パワハラ個人訴訟団」などと連帯し、安心して働ける正常な職場を取り戻さなければならない。

結成大会以降、茨城・福島両支部の結成と11機関の分会が結成し体制を確立し、同時に29名が水戸地本に加入した。さらには大宮・横浜地本が結成し、JT S U - Eの旗の下に2,800名を超える仲間が結集してきている。私たちは、結成主旨である「全ては組合員のために」、安全で安心して働ける職場づくりを目指し、現在も職場で悩み苦しんでいる仲間へJT S U - E水戸地本への結集を堂々と呼びかけていく！

以上、宣言する。

2020年7月18日
JR東日本輸送サービス労働組合
水戸地方本部
第2回定期大会